

# サッカーを愛するまち

「サッカーのまち、遠野」は、子どもから大人までサッカーを楽しむ環境がある。一生懸命頑張る選手たちを、応援してくれる人たちがいる。

身近にあるサッカー

「サッカーのまち、遠野」と呼ばれるゆえんは、遠野高校の活躍だけではない。子どもから大人まで、男性・女性に関わらずみんながサッカーに親しむ環境が、ずっと昔から続いていた。

一九七三年に始まった「サッカーカーニバル」は、春の恒例行事として定着。小学生から五十・六十年代までの部門があり、毎年、県内外から多くのチームが参加し技術の研さんや交流に爽やかな汗を流している。

毎年六月から九月まで夜間に開催される「市内サッカーリーグ」には、サッカー経験者も、社会人になって始めた人も一緒に仕事帰りにサッカーを楽しむ。

かつては市内女子ソフトサッカー大会も開催されていて、主婦らが男性顔負けのプレーでサッカーを楽しんでいた。



2005年10月に遠野を会場に開催された「スポレク祭」壮年サッカー競技。年齢を感じさせない華麗なプレーが観客を魅了した

た。そうした環境もあり、八三年に結成した女子サッカーチーム「遠野パトス(後に「リベロ遠野」に改名)」は全国アマさんサッカー大会で九〇年に準優勝、九二年に優勝、九七年には第三位の活躍を見せた。「綾織サッカークラブ」も、パトスとしのぎを削りながら全国大会へ出場し奮闘した。

遠野高OBらが主力の社会人チーム「遠野クラブ」は、東北社会人リーグ二部北ブロックに参戦。〇五年にはリーグ優勝を果たし、昨季も終盤まで首位争いを演じた。「サッカーのまち、遠野」にふさわしい高いレベルのサッカーを披露している。

〇五年には「全国スポーツレクリエーション祭」壮年サッカー競技が本市を会場に開催された。選手の平均年齢五十五歳の地元チーム「リバティ遠野」も出場し、韓国や静岡などのチームと熱戦を展開。サッカーが生涯スポーツである。

ることを多くの人に示した。

縁の下の力持ち

こうした関係者らのたゆまぬ努力だけではない。遠高のそばにある自宅で三十年以上にわたり下宿を営む菊池臣子さん(六日町)。親元を離れて暮らす選手たちの母親代わりとして、これまで百人以上の成長を見守ってきた。「この子たちが大好きなサッカーに集まることができるようにね」と、毎日、下宿生十人分のご飯支度や洗濯などに汗を流す。菊池さんは、年齢的なこともあり三月で下宿を閉じることにしてい

る。「サッカー部が全国大会に出るのが一番うれしいんですけど、わが家の子どもたちが活躍したらなおさら。今年は本当に大きなプレゼントをもらいました」と笑顔を見せる。選手たちは「ここで生活があったからサッカーを続けてくれました。感謝しています」と話す。

青と白の「ペンギン」のユニホームにあげられ、毎年県内各地から多くの選手が遠高サッカー部に集まってくる。「まちを挙げて、サッカーを応援しているのがすごい」と、自分が生まれ育った地域と比



夕食後、下宿生たちと談笑する臣子さん(右から2人目)

べて話す選手たち。偶然通り掛かったまちの人に「この前の試合はどうだった」と聞かれることもしばしばあるという。中には、下宿生活は大変

だろうからとサーブスしてくれるお弁当屋さんなどもあるという。サッカーに携わっていない人までもが、遠野のサッカーに関心と期待を寄せている。

「僕も遠高でサッカーをやりたい」と、遠野の子どもたちは、サッカー部が全国で活躍する姿にあげられ、高校と同じ「ペンギン」のユニホームを身にまとい日々ボールを追っている。

「サッカーのまち、遠野」の発展は、「サッカー」と「遠野」を愛する人たちによって長い間支えられてきた。

## ◎取材を終えて これからも続く夢への挑戦

「今年も国立に行くぞ!」

今年の正月は、遠高サッカー部の活躍に市民が沸いた。会場に駆けつけた応援団やOBだけでなく、市民センター大ホールではおよそ400人の市民が大型スクリーンで戦況を見つめた。全力でボールを追う選手たちに、サッカーが好きな人も、そうでない人もみんなが一緒になって必死の声援を送った。ほかの町にはない、ずっと昔から続く「サッカーのまち、遠野」の姿だ。

「頑張る続けること」は決して簡単なことではない。共に助け、励まし合う仲間や支えてくれる周りの人がいるから乗り越えられることもある。

「サッカー部のひたむきな姿に、勇気ももらうんだよね」と、ある人が言った。夢に向かって頑張る選手たちに力をもらい、今度はそれを糧にみんなが自分の夢に向かって頑張っている。

サッカーに限らず夢に向かって挑戦する姿は、遠野に大きな活力を与えてくれる。みんながサッカーを楽しむ「サッカーのまち、遠野」は、みんなが夢に向かって挑戦し続けるまちでもあってほしい。遠野がいつまでも輝き続けるために。



届かなかった夢への挑戦は、後輩たちに託された

## ご支援・ご声援ありがとうございました

このたびは、本校サッカー部の全国大会出場にあたり、市民の皆さまから物心両面にわたるご支援とご声援を賜り、誠にありがとうございました。皆さまの熱い思いとご声援により、選手の粘り強さと勇気をもたらしていただいたものと心から感謝いたします。

今後ともますますのご支援・ご声援を賜りますようお願い申し上げます。御礼のごあいさつとします。

県立遠野高等学校  
同校全国高校サッカー募金委員会

## 遠野高校の活躍は、 僕たちのあこがれ

サッカー少年団「ヴァレンテとおの」でプレーしています。遠高の選手の活躍は僕たちのあこがれ。とてもかっこいいです。僕たちも大きくなったらペンギンのユニホームで、全国で1番になりたいです。



左から 菊池陸君(北小1年)  
菊池玲緒君(北小5年)  
菊池優介君(上郷小5年)

## お正月はサッカーで 盛り上がりませう

母がサッカーをやっていた影響もあり、小学5年から続けています。「お正月はサッカー」というくらい、遠高のサッカーで盛り上がりませうね。遠野には、男女関係なくサッカーを楽しめる環境があると思います。



阿部紘未さん  
(21歳、松崎町)

INTERVIEW

まちの声を聞きました

遠高サッカー部を応援しようと、市民有志らが作成した「のぼり」

